

いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol. 7 本年産の課題を確認し、園地環境を改善しよう！

1 はじめに

◎ 本年産の課題をしっかりと振り返り、次期作に向け、対策を実施しましょう！

- ◆ 本年は、双子果の発生が多く、着果量がやや不足した園地が多く見られました。また、「佐藤錦」を中心に高温障害果が多発し、収量減の大きな要因となりました。

■ 本年産の作柄不良要因に対する技術対策

	【短期的な対策】	【中長期的な対策】
対 高温障害果	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な栽培管理 早期収穫、すぐりもぎ、反射シートの早めの除去、葉摘み手法の見直しなど ・資材等の活用 遮光、樹上散水、白色反射シートなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・品種構成の見直し 「佐藤錦」から果肉が硬い「やまがた紅王」等への一部切り替え ・栽培面積に合わせた雇用労力の確保、軽労化樹形の導入(収穫効率が高い)
対 双子果	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季剪定手法の見直し 最小限にし、不必要に剪定しない ・資材等の活用 夏季の遮光、樹上散水など 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な樹勢の維持 肥培管理、灌水、病害虫防除など ・老木樹の計画的な改植
対 結実確保	<ul style="list-style-type: none"> ・受粉対策の徹底 灌水、人工受粉、切り枝設置など ・充実した花芽づくり(早期落葉防止) 病害虫防除、肥培管理、灌水など 	<ul style="list-style-type: none"> ・受粉樹の導入 「紅さやか」を中心に複数品種導入し、園地の受粉樹の割合を高める

2 今後の管理について

◎ 褐色せん孔病が多く見られます！充実した花芽をつくるために、基本的な栽培管理を徹底するとともに、園地環境を見直しましょう！

(1) 基肥・灌水

- ◆ 基肥は、根が活動している9月上旬～中旬に施用
 - ・年間施肥量のうち礼肥施用分の残りを施用
 - ・樹勢が低下した樹には、完熟たい肥の連年施用が有効
- ◆ 土壌が乾燥している場合は灌水を実施
 - ・特に、幼木は根域が浅く、土壌乾燥の影響で樹が衰弱しやすいため、土壌の乾燥状況に応じて灌水

(2) 病害虫防除の徹底

- ◆ 褐色せん孔病
 - ・ **前年に続き多発生！落葉している園地が多くみられる**
(7月以降の降水量が多いため、前年よりも多発園あり)
 - ・ 発生状況に応じて、**薬剤散布をさらに1～2回実施**
 - ・ 被害落葉は翌年の伝染源となるため、収集し、適切に処分



発病がみられる園地では、9月中に薬剤散布を1回以上実施！

(3) 光環境の改善

◆ まずは、改善が必要かどうか、園地や樹の状況を確認しましょう！

「光環境の改善」が必要ない園地・樹	「光環境の改善」が必要な園地・樹
 <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹冠内部にもチラチラ光が差し込んでいる園地 ・ 隣接樹との余裕がある園地 ・ 樹勢が適正～弱い樹 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹冠下に光が届かない園地・樹 ・ 大枝が多く、樹冠内部が暗い樹 ・ 樹の上部が大きく、下部の日当たりが悪い樹 ・ 樹勢が強い樹（強勢な枝や徒長枝の発生が多い樹）

◆ 始めに・・・隣同士の樹の枝が重なっていたら ⇒ 縮伐・間伐

→ 「永久樹（優先する樹）」を決め、そうでない樹を縮間伐

◆ 次に・・・樹冠内部が暗い樹、特に樹勢が強い樹では ⇒ 夏季剪定

【夏季剪定の注意点】（必須作業ではありません！）

- ・ **樹勢が適正な樹、弱い樹、十分明るい樹・園地では行わない！**
- ・ 剪定は最小限に！ノコギリを主体とした間引き中心の大枝整理のみとする。
- ・ 気温が高い時期に剪定を行うと、日焼けや双子果の発生を助長する可能性があるため、9月中旬以降に行う。

◆ 成木の樹冠下に苗木を定植した場合

→ 成木の縮間伐を実施する

（右図：苗木の真上に被さっている大枝を縮伐）

「やまがた紅王」の苗木を成木の樹冠下に植えていませんか？

日当たりが確保できているか要確認！

※ そのままにしておくと、樹冠拡大が遅れ、収量が確保できない。



熱中症には十分注意！ 必ず休憩と水分補給を行いましょう!!

村山総合支庁農業技術普及課 ・ 西村山農業技術普及課 ・ 北村山農業技術普及課

TEL:023-621-8270

TEL:0237-86-8215

TEL:0237-47-8631

山形さくらんぼブランド力強化推進協議会（事務局：農林水産部園芸大国推進課・農業技術環境課）